

平成6年度

沖縄県教育委員会・竹富町教育委員会指定体力づくり推進校

研究紀要

(1年次)

研究主題

自ら進んで運動に親しむ上原っ子の育成

——個を生かす学習指導の改善と工夫——

平成6年12月2日(金)

竹富町立 上原小学校

沖縄県竹富町上原383番地

TEL(09808) 5 - 6 2 5 9

はじめに

国際化、情報化、価値観の多様化等、著しく変化するであろう21世紀に向けて、今、学校教育に求められていることは、個性の尊重、自己教育力の育成、体力の保持・増進等、生涯学習の基盤としての教育の推進である。即ち、一人一人の児童に、基礎的基本的な内容を確かなものとして身に付けさせ、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応していくための思考力、判断力、表現力、創造力等の資質・能力を育成し、その資質・能力を生きて働く力として行動に移す源になる基礎体力を培うことが、学校教育に負わされた大きな課題である。

本県においても学力向上対策を最重要課題として位置づけ、知・徳・体調和の取れた児童生徒をめざし、学校、家庭、地域が一体となって全県民的な取組を進めているところである。そのひとつの領域である体力づくりについて、平成6、7、8年度にわたり、県教育委員会、竹富町教育委員会から推進校としての指定を受け、研究に取り組むことができることは、教職員一人一人の資質、児童一人一人の基礎体力および父母・地域の協力体制を培う上で誠に意義あることである。

本校では、教育課程改善のねらいを踏まえ、児童・地域の実態、これまでの学習指導法の反省等を生かし、「自ら進んで運動に親しむ上原っ子の育成」一個を生かす学習指導の改善・工夫一を研究テーマにこの1年研究を進めてきた。数少ない教職員、そして、体力づくりの研究に深い見識を持った指導者がいない本校で、研究主任を中心に、お互い遠慮のない意見をぶつけ合いながらの研究であったが、共通理解のもと、一人一人が研究そのものを自分のものとして受け止め2年、3年次への方向性を見出すことができたのは大きな成果であった。

反面、「個に応じ、個を生かし、個を伸ばす学習指導法の改善」「教材教具、自然環境の効率的な活用」等、課題も山積している。私達は、これらの課題をひとつひとつ解決していく責務を負わされている。「研究の深まりが課題を生む」の言葉通り、研究を深めれば深めるほど問題点が噴出し、課題となっておそいかかって来る。だからこそ時間をかけ、英知を出し合い、実践を試み、課題解決に向けての努力が要請されるのである。言いかえると「試みることによって悩むことによってそれを乗り越える努力をする」このプロセスの繰り返しが一人一人の資質を高め力量を身に付け、自信となって、充実した研究へと発展させていくのである。これこそが研究と言われるものではなからうか。

私達は、全教職員が心一つにして取り組んできた1年次の「小さな研究の輪」から、父母・地域をまきこんだ「大きな教育の輪」へと拡大させ、1年次の成果の上に2年次の研究の成果を積み上げ、本校の教育、本校の体力づくりに大きなあかりをともし、一人一人の子供達に、生涯学習の確かな基礎づくりをしていきたいと考えている。

最後に、1年次の研究を進めるに当たって、多面にわたるご指導、ご助言をくださった八重山教育事務所、竹富町教育委員会はじめ、環境整備にご尽力くださったPTA、地域の方々に厚くお礼申し上げるとともに、試行錯誤の中で真剣に研究に取り組んでこられた先生方に感謝の意を表し、はじめのことばとしたい。

平成6年12月2日

校長 喜納和善

目次

I 研究の概要

1	研究主題	1
2	主題設定理由	1
3	研究の仮説	2
4	研究のねらい	2
5	研究の進め方	2
	(1) 研究の方針	2
	(2) 研究の内容	3
	(3) 研究の方法	3
	(4) 研究の組織と運営	3
	① 組織図	3
	② 運営(各部の活動内容)	4
	(5) 研究の構想図	5
	(6) 研究計画	6
	① 3年間の概要	6
	② 1年次の研究計画	7
6	1年次の研究経過	8
7	体力づくりについての基本的な考え	10
	(1) 体力づくりと新しい体育	10
	(2) 運動の特性と運動の分類	10
	① 運動の特性	10
	② 運動の分類	11
	(3) 新しい体育の学習過程	12
	① 器械運動	13
	② ボール運動	14
	③ 陸上運動	14
	(4) 単元計画の形式例	15

II 実践

1 授業研究部

- (1) ねらい17
- (2) 内容17
- (3) 授業実践(器械運動)18

2 施設・用具部

- (1) ねらい29
- (2) 内容29
- (3) 実践30
 - ① 体育用具の一覧表30
 - ② 工夫した用具35

3 調査研究部

- (1) ねらい36
- (2) 内容36
- (3) 実践
 - ① 本校児童の体位37
 - ② スポーツテストの結果と考察38
 - ③ 体育学習における意識調査44

III その他の体力づくり

- 1 ねらい50
- 2 内容50
- 3 実践51
 - (1) 親子駅伝競争大会実施計画案

IV 研究の成果と今後の課題

- 1 研究の成果52
- 2 今後の課題52

I 研究の概要

1. 研究テーマ

自ら進んで運動に親しむ上原っ子の育成

— 個を生かす学習指導の改善と工夫 —

2. テーマ設定の理由

今日、我が国においては技術革新にともなって生産力が高まり、時間的、経済的にゆとりが生まれ余暇の楽しみ方に多種多様な価値観が生まれてきた。これらのゆとりは運動を行なううえでよい条件を満たしている。しかし、こうした生活様式は乗り物の発達に伴ない、歩く機会の減少（省歩化）が生まれ、逆に運動不足を招いていると言われている。また、高度情報化社会の進歩によってコンピュータが個人に普及し運動をする機会が少なくなっている。こうした現象は都市から地方までみられ、運動不足の解消手段が今日的課題としてクローズアップされてきた。

こうした現状を踏まえて改定された新学習指導要領における体育科の目標は、「適切な運動の経験と身近な生活における健康・安全についての理解を通して、運動に親しめるとともに健康の増進と体力の向上を図り、楽しく明かるい生活を営む態度を育てる」と定められた。その主旨は生涯スポーツの基礎をつちかうことと、体力の向上を図ることである。

「体力の向上」とは適切な運動の経験を通して、調整力・筋力・持久力など調和の取れた体力を養い、運動の基礎的な技能を身に付けることを目指している。

つまり、基礎・基本を踏まえ個人差に応じた学習指導の展開が求められているのである。このことは、一人ひとりの欲求やレベルにあった場の設定や用具を活用することにより、その運動の本質的な魅力（特性）に触れさせ、運動の楽しさを味わわせることによって積極的に学習に参加させ運動を好きにさせること（運動への愛好的態度を育てる）ができるのではないか。

このような学習指導の展開を仕組むことにより、児童は自ら運動に参加し、運動技能の高まりが得られると考えた。こうした学習は生涯的な運動への自発的、自主的な参加を促し、運動技能の高まりによって運動への愛好的態度が育っていくのではないか。

すなわち、体力を高めれば運動技能も高まり、運動技能を高めることによって体力が養われるという循環相互作用が生まれ、おのずから体力の向上が図られるのではないかと考え本テーマを設定した。

3. 研究の仮説

- (1) 個を生かす運動の場づくりや、学習指導の工夫をすれば運動の特性にふれ、運動の楽しさを味わい自ら体育学習に取り組むようになる。
- (2) 学習カードや資料を生かした学習の展開を図れば、自ら進んで体育学習へ取り組む態度の育成が図られる。
- (3) 地域の特性を活かした体育学習を展開すれば運動への愛好的態度が育成される。

以上の3点の仮説をもとに、教科体育を中心として教育活動全般にわたり、計画的・継続的に研究を重ねていけば自ら進んで運動に親しむ態度や能力が育ち体力が向上するであろう。

4. 研究のわらい

- (1) 自ら進んで運動に親しみ、運動への愛好的態度や能力を育成する。
- (2) 個を生かす場づくりや、学習指導の工夫を図る。
- (3) 生涯体育をめざした運動の生活化を図る。
- (4) 学校教育目標の具現化を図る。

5. 研究の進め方

(1) 研究の方針

- ① 研究会は全体会を中心にし、各部を通して研究を進めていく。
- ② 全職員の共通理解のもと、課題解決が図られるように研究を進める。
- ③ 全学年が授業研究を実践し、学習指導の充実が図られるようにする。
- ④ 研究発表会は、2学年公開授業を行ない1年間の研究の成果を発表する。
- ⑤ 毎月第1、3、5水曜日を校内研修日とし、研究を進める。
- ⑥ 地域、父母との連携を計り、体力の向上及び健康の保持・増進に関する啓蒙を図る。

(2) 研究の内容

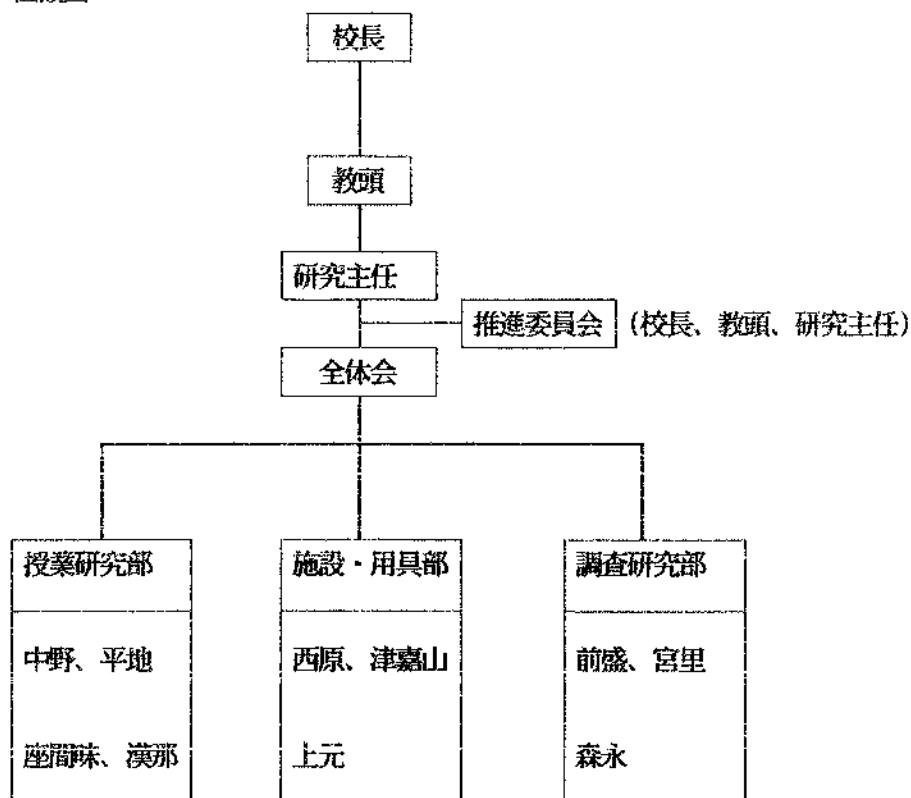
- ① 理論研究 (体力づくりの考え方、新しい体育の考え方・進め方について)
- ② 授業実践による研究。
- ③ 簡易教具・学習カード・学習資料の研究と作成。
- ④ 体力づくり環境の整備。
- ⑤ 児童の実態把握と分析。

(3) 研究の方法

- ① 文献、資料による理論研究をする。
- ② 授業実践を通じた研究をする。
- ③ 調査研究をする。
- ④ 指導主事を招請し研究をする。
- ⑤ 実技研修をする。

(4) 研究組織と運営

① 組織図

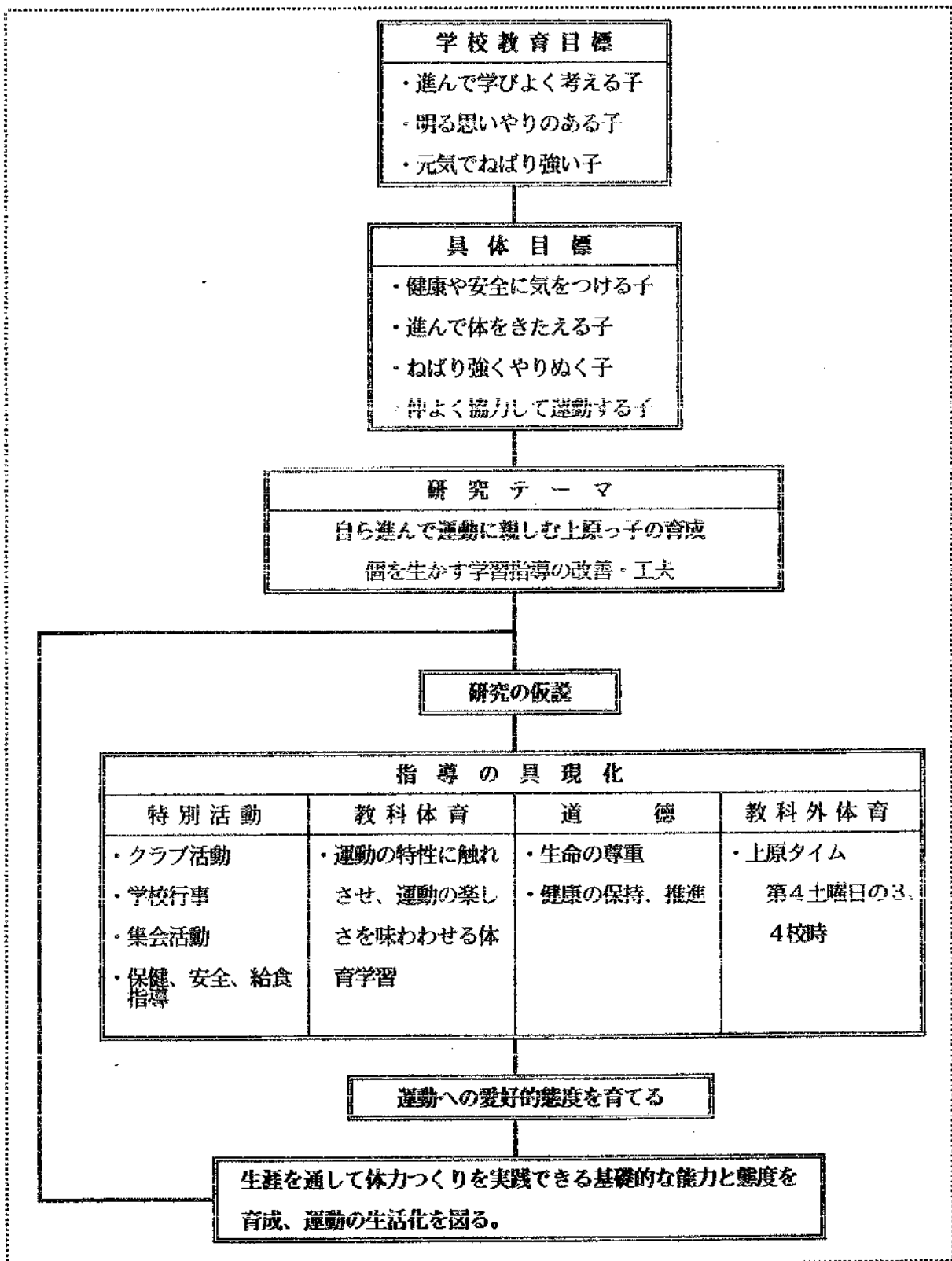


② 運営

各部の活動内容

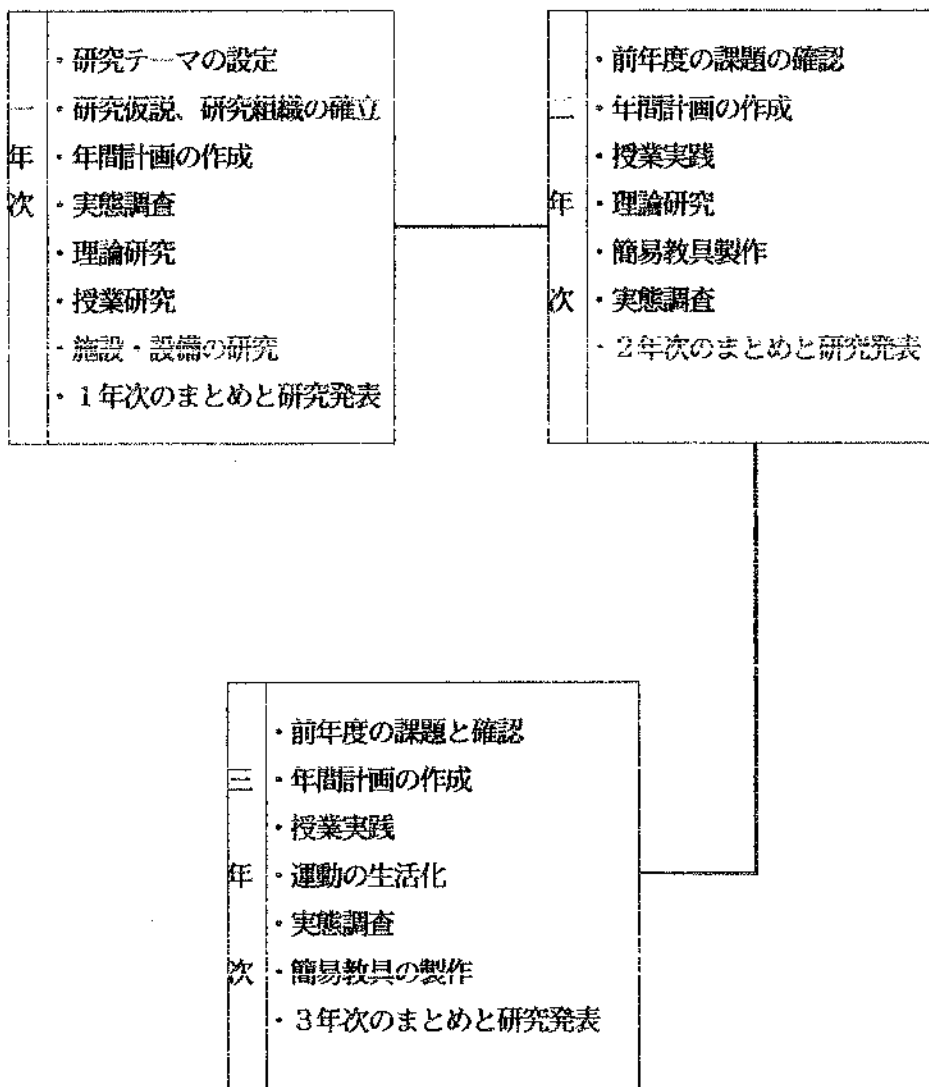
部会名	ねらい	氏名	活動内容
推進 委員会	・研究計画の立案をし、 効果的な研究の推進を する。	校長 教頭 漢那	・各部会との連絡調整 ・研究の全体計画の立案 ・授業研究の世話 ・研究紀要のまとめ
授業 研究部	・個を生かす学習指導法 についての研究をする	中野 平地 漢那 座間味	・体力と運動について。 ・年間計画、指導案について ・授業研究の実践について ・特別活動における活動計画について ・学習資料・学習ノートを作成
施設・ 用具部	・効果的な用具の活用 及び簡易教具の研究 をする。	上元 津嘉山 西原	・施設・用具の効果的利用や設置について ・簡易教具作成
調査 研究部	・各種の調査を行ない、 実態を把握しながら体 力づくりを推進する資 料を作成する。	宮里 前盛 森永	・児童の実態調査をする。 ・スポーツテストの集計をする。

(5) 研究の構想図



(6) 研究計画

① 3年間の研究計画



② 1年次の研究計画

月日	曜	会	研修内容	場所
4月20日	水	全体会	・テーマ設定について ・体力づくりの考え方について	職員室
5月18日	水		・テーマ設定理由について ・研究仮説、研究組織、研究方針 ゆとりの時間の活用について	職員室
6月1日	水		・「新しい体育の考え方」について ・体育実技指導者講習会 講師「座間味 靖」	体育館
6月15日	水		・理論研究「体力づくりの進め方」 ・年間指導計画の作成について ・実態調査について(運動能力テスト)	職員室
6月22日	水		・単元計画の作成と指導案の立て方 ・実態調査の集計と考察	職員室
7月13日	水	全体会	・体育用具の利用と工夫(用具の製作) ・実技講習会(場の設定の考え方)	体育館
9月14日	水	全体会	・指導案検討会(6年)	職員室
9月21日	水		・運動会準備の為なし	
10月12日	水	全体会	・研究授業及び授業研究会(6年)	
10月19日	水	全体会	・研究紀要のまとめ方について	職員室
11月2日	水	全体会	・研究紀要原稿読み合わせ	職員室
11月16日	水	全体会	・公開授業指導案検討会(1年、5年) ・原稿提出、印刷開始	職員室
11月24日	木	全体会	・原稿製本(印刷会社へ) ・発表会の役割分担について	職員室
11月30日	水		・発表原稿読み合わせ ・発表について	職員室
12月2日	金	全体会	・公開授業および研究発表会	体育館

6. 1年次の研究経過

月 日	曜	会	研 修 内 容	場 所
4月20日	水	全体会	・テーマ設定について ・サブテーマを決める	職員室
6月 1日	水	全体会	・「新しい体育の考え方」について ・体育実技指導者講習会 講師「座間味 靖」	体育館
6月16日	木	全体会	・理論研究「体力づくりの進め方」 ・実態調査について(運動能力テスト)	職員室
6月22日	水	全体会	・単元計画の作成と指導案の立て方	職員室
7月 6日	水	全体会	・理論研究「新しい体育の考え方について」	職員室
7月11日	月	全体会	・理論研究「新しい体育の考え方について」志喜屋 清指導主事招請	図書室
9月12日	月	全体会	・「新しい体育の授業の進め方」についてビデオ学習会	理科室
10月 5日	水	全体会	・新しい学力観に立った体育学習	職員室
10月19日	水	全体会	・新しい体育の学習過程について	職員室
10月24日	月	全体会	・6年研究授業について 指導案検討会	職員室
10月31日	月		・6年研究授業(跳び箱) 体育館 志喜屋指導主事、島袋憲一学校教育課 長招請	図書室
11月 2日	水		全体会 ・研究紀要のまとめ方について	職員室
11月14日	月	各部	・報告書原稿作成	
11月16日	水	各部	・報告書原稿作成	

11月21日	月	全体会	・原稿製本(印刷会社へ)	職員室
11月28日	月	全体会	・研究発表会の役割分担について ・公開授業指導案検討	職員室
11月30日	水	全体会	・報告書読み合わせ	職員室
12月 2日	金	全体会	・公開授業および研究発表会	体育館

7. 体力づくりについての基本的な考え方

(1) 体力づくりと新しい体育

「新しい体育」とは、運動そのものが持つ楽しさや喜びを味わい、自ら積極的に行なう運動を目指した「運動の教育」である。

この「運動の教育」は生涯スポーツの一環として、子供が自ら学び、個に応じた運動に親しむことができるように子供と運動とのかかわりを学ばせ、運動が内包している独特の楽しさや喜びを体験的にわからせようという考えに立つものである。つまり、自主・選択を学習様式の基本的な型と考え、「めあて－学習－評価」のそれぞれが学習者の意志を反映した選択によって進める学習である。

そこで、体力づくりを進めて行くにあたっては体育の授業を中心に考え、上記のような考えを基に、低学年では、運動を楽しくできるようにする。中学年においては、運動を楽しく学習する中で簡単な技能を身に付けることができるようにする。高学年においては、各種の運動のよさがわかり、進んで技能を身に付けることができるようにする。

すなわち、小学校期においては運動を楽しく行なうことができるように学習指導を工夫・改善することが大切である。このように「新しい体育」における学習指導の考え方では、運動を楽しく行ない、運動を継続的、積極的に実践することになる。その結果として、体力の向上が図られるのである。

(2) 運動の特性と運動の分類

① 運動の特性（一般的特性）

運動の特性とは、その運動が持つ特有の性質のことである。

ア、機能的特性

子供にとってどんな魅力があり、どんな欲求や必要を充足してくれるか。一般的には競技スポーツのレベルで考えるが、教育の場ではその運動の持つ喜び・楽しみ方をいう。この特性は次の3つに分けて考えることができる。

○ 競争型 ○ 克服型 ○ 達成型

イ、構造的特性

その運動が持つ技能や形の仕組みはどうなっているのか。例えば、跳び箱を例に考えると助走－踏切－着手－着地の一連の動作などである。

ウ、効果的特性

その運動が、運動するものにとってどのような効果があるのか。

② 運動の分類

ア. 欲求の充足を求めて行なわれる運動

挑戦の 欲求に 基づく もの	競争型	他人に挑戦し、勝ち負けを競い合うことが楽しい運動（個人対個人・集団対集団）	球技、水泳 陸上
	克服型	自然や人工的に作られた物的障害物へ挑戦しそれを克服することが楽しい運動	器械、水泳
	達成型	記録やフォームなどの観念的に定めた基準に挑戦し、それを達成することが楽しい運動	陸上、水泳 器械
模倣・ 変身の 欲求に 基づく もの	創作型	感情や考えていることを動きで表わすことが楽しい運動	表現
	リズム型	踊り方を覚えてリズムにあわせて踊ることが楽しい運動	ダンス
	社交型	構成されているリズムカルな動きで変身し、相手と対応することが楽しい運動	フォークダンス

イ. 必要を充足するために工夫されている運動

「体操」があるが、これは、体にとって必要なものの種類に応じて分けることができる

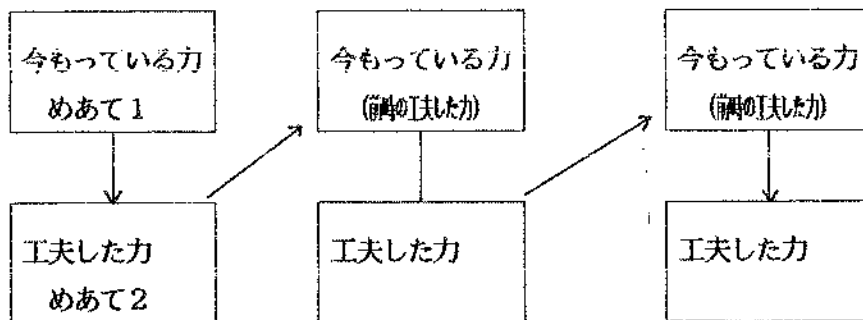
(3) 新しい体育の学習過程

「新しい体育」における学習過程とは、学習のねらいを達成するため個人差を配慮しながら運動に内在する機能的特性を求めた学習になる。

「やさしい運動」とは、それぞれの能力に応じて現在楽しく行えるレベルのものであり「工夫した運動」は自発的な創意、工夫、努力によって高まった能力のレベルに対応する挑戦のレベルにあるもので、次のように発展させる。また、学習のどの段階でもその運動の持つ特性に十分触れさせるようにする。このような学習過程は次の2つの型に分けられる。

◆スパイラル型

単元の流れ	1 10時間
1時間の学習活動	
0 めあて1 ◇自分の力にあつためあてを決める。 ◇今できる技に挑戦する ◇できばえを確かめる。	めあて1 今できる技で運動を楽しむ。
めあて2 ◇少し頑張ればできそうなめあてを決める。 45分 ◇やさしい場から挑戦する。 分 ◇できばえを確かめる。	めあて2 頑張ればできそうな技に挑戦する。



このように1時間の学習を **今もっている力** → **工夫した力** を繰り返し展開しながら進めて行く学習をスパイラル型学習という。(器械運動、陸上運動、水泳)

◆ ステージ型

時間 分	1 ~ 3 時間	4 ~ 7 時間	8 ~ 12時間
0	ねらい1 簡単なルールを決め、自分 や相手チームの力を知る	ねらい2 ルールや場を工夫し、 対抗戦をする。	ねらい3とまとめ これまでの技能を生 かし、ルールや場を 工夫してリーグ戦を する。
45 分	◇ リーグ戦	◇ 対 抗 戦	◇ リーグ戦

このような学習は、1単元を10時間前後で計画し、1つのまとまりをもったステージを
 ねらい1 → ねらい2 → ねらい3 とし、技能の高まりとともに連続的に学習して行
 く学習課程をステージ型という。この学習課程は主に、ボール運動、陸上運動で行なわれ
 る。

※ 運動領域における型の分類

① 器械運動（スパイラル型）

運動の特性

今できる技をさらに上手にできるようにしたり、もう少し頑張ればできそうな技に挑
 戦し、できるようになることを楽しむ運動である。

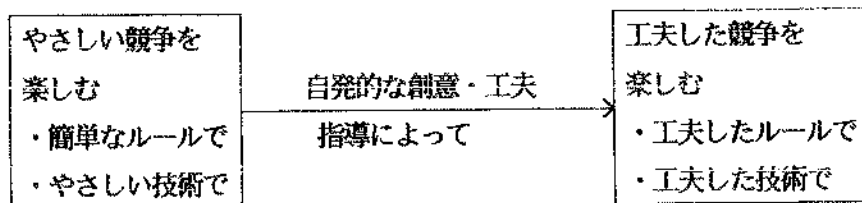


(マット運動 跳び箱運動 鉄棒運動)

② ボール運動（ステージ型）

運動の特性

ボールを扱いながら作戦を工夫して、集団対集団で得点を競い合うことを楽しむ運動である

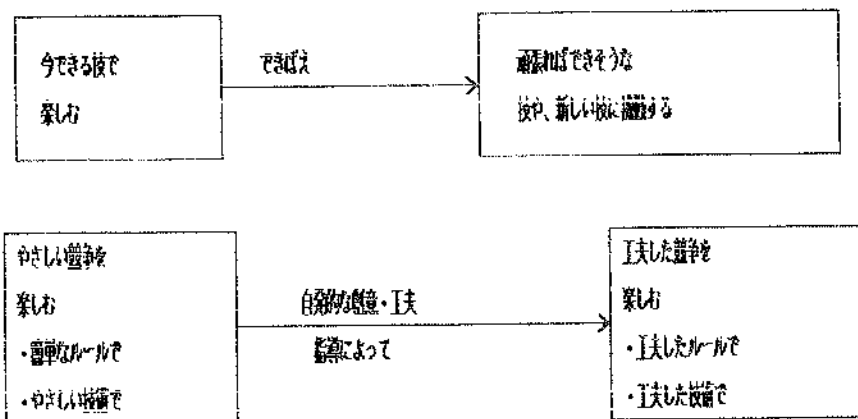


(ドッジボール、ポートボール、ラインサッカー、バスケットボール等)

③ 陸上運動（スパイラル・ステージ混合型）

運動の特性

自分の記録に挑戦したり、友達と競争（走）したりすることを楽しむ運動である。



(障害走、走り幅跳び、走り高跳び)

このように「新しい体育」の学習過程は「今の力を十分に生かして、特性を求める学習」から「創意・工夫、努力を加えて特性を求める学習」の段階へと十分時間をかけて進めることになる。「できることで十分特性に触れ」そこで培われた力や新しく身に付いた力を使って「出来そうなことに挑戦し、更に特性に触れる」という学習の流れである。

その流れに添って各単元の学習課程を計画し、実施していくには次のような考えを取り入れた。

(4) 単元計画の形式例

① 単元名

② 運動の特性…………… 種目の欲求あるいは必要を充足する機能を中心にとらえ、行う者にとっての種目の意味と価値、基礎的な行い方を明らかにし、具体的な学習のねらいと内容・経験を導き出す手がかりにする。

ア、一般的特性…………… 行う者にとっての種目の一般的な魅力（機能的特性）を中心に特性と基礎的な特性の求め方、触れ方を明らかにする。

イ、子供から見…………… 意欲や能力、経験等に個人差のある児童の実態を踏まえて、学習する児童にとって、どこが楽しく（魅力）、どんな楽しみ方ができる運動か等を明らかにする。

③ 授業に対する

基本的な考え…………… 運動の特性や児童の実態を踏まえて、指導者がこの種目に対してどのように捉え、どのように授業を進めていこうとしているのかを明らかにする。

④ 学習のねらいと…………… 運動の特性を踏まえて、どの児童も特性を求められるねらいと、特道筋 性に触れながら、学習が発展する流れを示す。

ア、学習のねらい…………… すべての児童が、何を求め、何を考え工夫してどんな活動をすれば良いかを示す。

イ、学習の道筋…………… ねらいを区分けし、自発的・自主的な学習が深まり、広がる段階を示す。

ねらい1（めあて1）…………… 今の力を十分に発揮して、特性に触れられるねらいを示す。

ねらい2（めあて2）…………… 高まった力で工夫を加えたり、新しい課題に挑戦するねらいを示す。

⑤ 時間配分 ……………… 各段階に時間の配分を予定し必要な施設・用具を示す。

⑥学習と指導……… 学習のねらいと道筋を具体的な活動の展開に予定し、示す。

学習のねらいと指導		施設・用具	指導
はじめ	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいと道筋。 ○学習の進め方がわかる。 ○グループや活動の場を知る。 ○学習の決まりや約束を作る。 ○何をねらいとし、どんな運動を誰と、どこで行うかがわかる。 		
なか	<div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">めあて 1</div> <p>めあて1の活動例 (飛び箱)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">今できる技で楽しむ。</div> <p>めあて例</p> <ul style="list-style-type: none"> ○開脚跳びの3段をする。 ○台上前転の6段をする。 		<ul style="list-style-type: none"> ○学習を進めていく上で指導すべき点や観察する点など ○力に応じためあてか。 ○自発的・自主的な活動ができるめあてか。 ○仲良く協力しているか。 ○学習を進めていく上で指導すべき点や観察する点など
なか	<div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">めあて 2</div> <p>めあて2の活動</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">頑張ればできそうな技や上手になりたい技に挑戦する</div> <p>めあて例</p>		<ul style="list-style-type: none"> ○力に応じためあてか。 ○めあて1を元にしためあてになっているか。 ○仲良く協力しているか ○どこで助言を必要としているか。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の反省と記録、学習カードの整理。 ○楽しかったこと、改めたいことを次のめあてにできるようにする 		<ul style="list-style-type: none"> ○めあてから学習を反省させる。 ○共通の問題や課題も考えさせる。

II 実 践

1. 授業研究部

(1) ねらい

「新しい体育」の学習指導法、活動内容の研究を深め、児童の実態にあった指導法を研究し、体力づくりの推進を図る。

(2) 内容

- ① 学習指導法の研究
- ② 体育学習カード、学習資料の研究と作成

体育科指導案

平成6年10月31日(月)

上原小学校6年1組

男子10名 女子5名 計15名

指導者 座間味 靖

1. 単元名 跳び箱

2. 運動の特性

(1) 一般的特性

いろいろな向きや高さの跳び箱を跳び越したり、新しい跳び越し方に挑戦したりして楽しめる運動である。

(2) 子供の立場から見た特性

- できる技で、いろいろな向きや高さの跳び箱に挑戦し、跳び越して楽しめる運動である。
- 自分の力にあった場で、新しい技に挑戦し、跳ぶことができたなら喜びが大きい運動である。
- 跳べる子も跳べない子も、できる高さや向きで自分なりのめあてを持って取り組める運動である。
- 安全に気をつけて、互いに教え励まし合い、協力することで楽しくなる運動である。

3. 跳び箱に対する基本的な考え

男女とも明るく、活動的な子供達である。アンケートからも解るとおり、ボール運動や陸上運動ほど好きというわけではないが、嫌いな運動としてあげられることも少なく、結構楽しいと思っている子が多い。

跳び箱運動は、その運動の内容からいって、苦手な児童にとっては、高さへの恐怖、跳び方の変化により、ためらいを抱き積極的に活動できない。しかし、得意な児童はさらに新しい技に挑戦しどんどん技能が高まっていく。つまり「できる」「できない」がはっきりする種目なのである。

そこで、めあての持たせ方や、場を工夫して、一人一人が主体的に学習に取り組めるようにしたい。また、みんなで教え合ったり、補助をしたり、安全にも気をつけながら、子供達が安心して跳び箱運動の楽しさを味わえるよう授業を進めていきたい。

跳び箱運動に関するアンケート

<p>1. 跳び箱運動は好きですか</p>	<p>好き 4名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・跳べるから ・走ったり跳んだりするから ・いろんな運動になるから <p>嫌い 3名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・跳べないから ・難しいから <p>どちらでもない 8名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・跳べた時は楽しいけど、跳べないときは悔しいから ・けがしたことがあるから
<p>2. 跳び箱運動でがんばりたいことは何ですか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高度な技に挑戦してみたい ・8段で台上前転をできるようにしたい ・あおむけ跳びをできるようにしたい ・いろんな技ができるようになりたい
<p>3. 跳び箱運動で心配なことはありますか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・怪我をしないか心配 ・からかわれそうで心配

4. 学習のねらいと道筋

(1) 学習のねらい

今できる跳び方でいろいろな跳び箱を跳び越したり、できそうな跳び方に挑戦して、とび箱を楽しむ。

(2) 学習の道筋

めあて1

得意な跳び方やできる跳び方で、いろいろな向きや高さの跳び箱を、大きな動作でとび越す。

めあて2

できそうな跳び方や上手になりたい跳び方に、跳びやすい場や跳び箱で挑戦する。

5. 時間配分

	1	2	3	4	⑤	6	7	8	9	10
10	はじめ	めあて1								発 表 会
20										
30		めあて2								ま と め
40										

6. 学習指導と展開

学習のねらいと活動		用具	指導
はじめ45分	<p>①学習のねらいを理解し、学習の進め方を知る。</p> <p>②学習のきまりや安全について知る。</p> <p>③学習カード、チェックカードの使い方を知る。</p> <p>④はじめの時間で自分のめあてを探することができる。</p> <p>⑤用具の準備や後片づけについて知る。</p>		
なか	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて1</p> <p>得意な跳び方やできる跳び方で、いろいろな向きや高さの跳び箱を、大きな動作でとび越す。</p> </div>		
45分	<p>①めあて1の場づくりをする。</p> <p>グループで分担し、いろいろな高さの跳び箱を設置する。</p> <p>②めあてを確認する。</p> <p>③自分のめあてに沿っていろいろな向きの跳び箱を跳び越す練習をする。</p> <p>○学習資料を参考にして今できる跳び方を選ぶ。</p>		<p>○めあて1の意味がよくわかっていて自分の選んだ跳び方をしているか、活動の順序を理解し、めあてを持って学習しているかを観察し、必要に応じて助言する。</p>
×8	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて1の例</p> <p>A君 開しゃくとびで縦5～7段に挑戦する。</p> <p>B君 かかえこみとびで縦3～5段に挑戦する。</p> </div> <p>○選んだ跳び方で、低い跳びやすい向きの跳び箱からはじめ3～4回跳べたら向きの違う跳び箱や高い跳び箱に挑戦する。</p>		<p>○同じ跳び箱の人と協力し合っているかを観察し、適宜助言する。</p>

な
か

- 跳ぶ順番を守ったり、跳び箱の安全を確かめて合図し、仲良く跳ぶ。
- 同じ跳び箱を跳んでいる人と見あったり、教えあったりして協力し学習する。

めあて2
できそうな跳び方や上手になりたい跳び方に、とびやすい場や跳び箱で挑戦する。

45

- ①めあて2の場づくりをする。
分担した役割に従って、跳びやすい跳び箱や練習の場を準備する。
- ②めあてを確認する。
- ③自分のめあてに沿って、跳び箱や練習の場を選び挑戦する。
- 学習資料を参考にして、自分にあっただきそうな技に挑戦する。

×

めあて2の例
A君 下向き横跳びと台上前転に挑戦する。
B君 あおむけとびと台上前転に挑戦する。

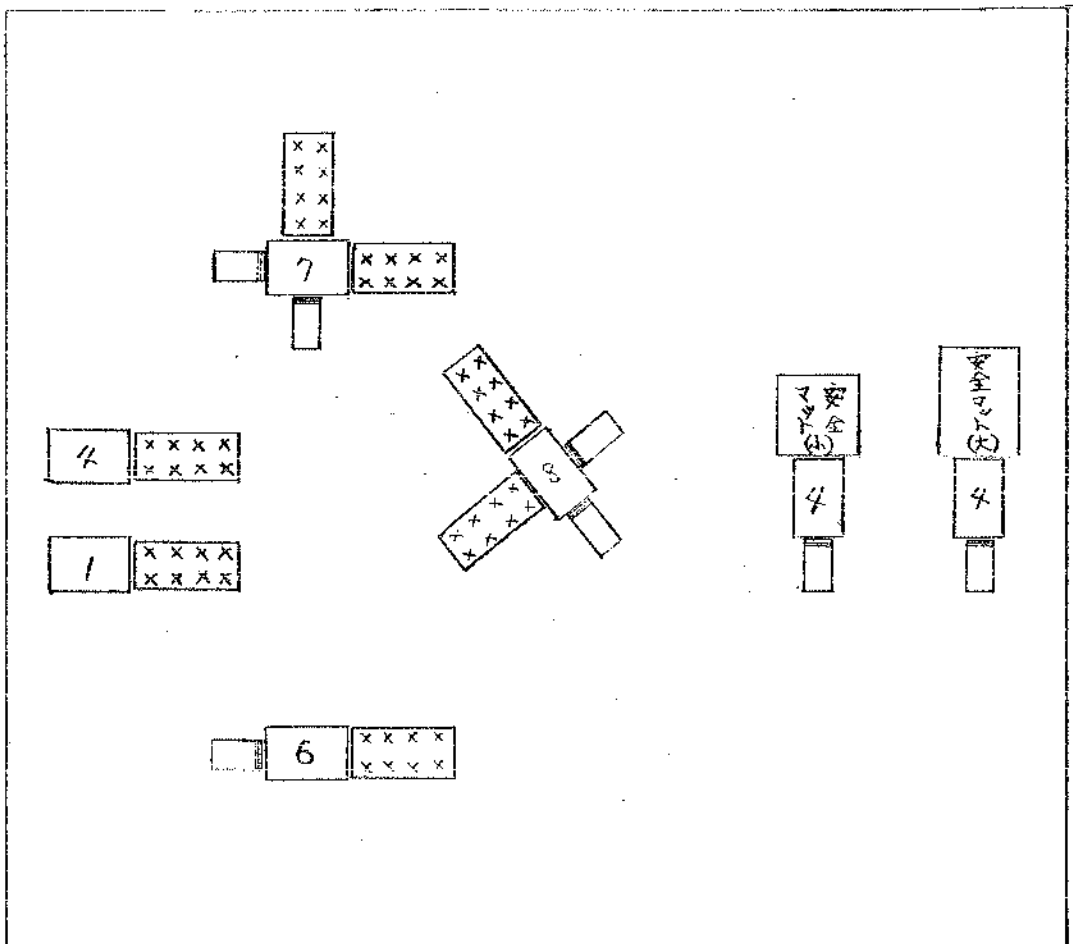
8

- はじめは練習の場で行ない、できるようになったらやさしい跳び箱に挑戦する。
- 3~4回跳べたら、更に高い段の跳び箱に移動して挑戦する。
- 同じ練習の場や跳び箱を使う人と安全を確かめたり、順序を守ったりして仲良く行なう。

- めあて1が十分に行われたら、めあて2へ進むように指導する。
- 跳び箱が安全に設置されているかを確認させる。
- 跳び方によって、どの場で挑戦すればよいか指導助言する。
- 挑戦する技は、学習資料を良く見て安全に正しく行なうようにさせる。
- 自分の力にあった無理のない跳び方を選び、それに適した跳び箱で挑戦しているかを観察し、必要に応じて助言する。
- もう少しでできそうなめあての時は次の時間も同じめあてで挑戦するよう助言する。

ま と め 45 分	<p>①発表会をする。</p> <p>○自分の技を発表する。</p> <p>○友達の見も見る。</p> <p>②学習のまとめをする。</p> <p>○学習のねらいや自分のめあてが達成できたか。</p> <p>○どんな事が楽しかったか記入する。</p> <p>○直していききたいことはどんなことか。</p> <p>○学習の記録はきちんとできたか。</p> <p>○仲良く協力しあうことができたか。</p>	<p>○練習した跳び方や新しくできた跳び方を発表しあう。</p> <p>○学習カードをもとにまとめ。</p> <p>○何名かに反省を発表してもらおう。</p>
------------------------	---	---

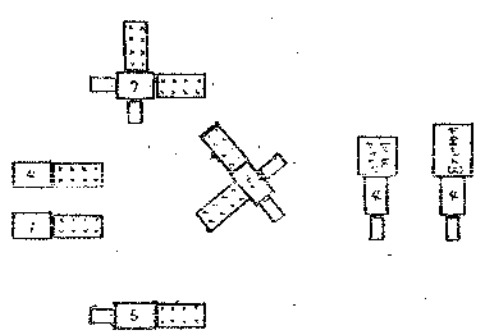
場の設定例



7. 本時の学習指導案

本時のねらい (5/10時)

今できる跳び方で、いろいろな跳び箱をとび越したり、新しい跳び方に挑戦して楽しむ。

	<p>○みんなで力を合わせて学習の場をつくる。</p> <p>(休み時間)</p> 	<p>用</p> <p>○跳び箱 6台 ○マット 7枚 ○踏切板 6台 ○学習ノート ○セーフティマット 2枚</p> <p>具</p>
<p>は じ め 5 分</p>	<p>学習のねらいと活動</p> <p>①準備運動をする。 柔軟体操、ランニング</p> <p>②今日の学習のきまりや、安全に気を付ける事などを確認する。</p> <p>③学習のねらいやめあてを確認する。</p>	<p>指 導</p> <p>○手首や間接などを念入りに行なう。</p> <p>○グループできるようにさせる。</p>
<p>な か 35 分</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>めあて1</p> <p>得意な跳び方やできる跳び方で、いろいろな向きや高さの跳び箱を、大きな動作で跳び越す。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて1の例</p> <p>A君 開脚跳びこしで、止まらないで両足で強く踏み切る。</p> <p>B君 閉脚跳びこしで、できるだけひざを胸につける。</p> </div>	

な か 35 分	<p>④めあてに沿って、いろいろな向きや高さの跳び箱に挑戦する。</p> <p>○学習資料を参考にして、自分ができる跳び方を選ぶ。</p> <p>○3～4回跳べたら、向きや高さの違う跳び箱に挑戦する。</p> <p>○順番を守って、安全に気を付ける。</p> <p>○同じ跳び箱の人と教えあったりして跳ぶ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて2</p> <p>できそうなとび方や上手になりたい跳び方に、跳びやすい場や跳び箱で挑戦する。</p> </div>	<p>○ねらいにあったとび箱を選んで観察し必要に応じて助言する。</p> <p>○同じ跳び箱の人と協力しているか観察し適宜助言する。</p>
な か 35 分	<p>⑤めあてに沿ってその跳び方にあった跳び箱を選んで挑戦する。</p> <p>○学習資料から、できそうな技を選びめあてにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて2の例</p> <p>A君 台上前転で、ひざを伸ばして回る。</p> <p>B君 うで立て前転とびに挑戦する。</p> </div> <p>○3、4回跳べたらもう少し上手になるための方法を考えながら挑戦する。</p> <p>○同じ跳び箱の人と順番を守り、安全に気を付ける。</p> <p>○ねらい2が達成できたら、次の時間からはねらい1に入れる。</p>	<p>○安全に設置されているか確認させる。</p> <p>○安全で正しい跳び方になるように助言する。</p> <p>○自分の力にあった跳び方を選んで観察し、必要に応じて助言する。</p> <p>○もう少しでできそうな技は次の時間も挑戦するよう助言する。</p>
ま と め 5 分	<p>⑥学習のまとめをする。</p> <p>○めあてが達成できたか。</p> <p>○安全に気を付けて楽しくできたか。</p> <p>○今日の学習の反省を発表する。</p>	<p>○学習カードに記入させる。</p> <p>○次時へのめあてにつながるようにする。</p> <p>○2～3人に発表させる。</p>

体育学習カード

(跳び箱運動)		月 日
今日の	めあて1	
めあて	めあて2	
◎よくできた。○ できた。 入△もうすこし。		先生から
(自己評価)		<div style="border-bottom: 1px dashed black; height: 15px; width: 100%;"></div> <div style="border-bottom: 1px dashed black; height: 15px; width: 100%;"></div> <div style="border-bottom: 1px dashed black; height: 15px; width: 100%;"></div> <div style="border-bottom: 1px dashed black; height: 15px; width: 100%;"></div> <div style="border-bottom: 1px dashed black; height: 15px; width: 100%;"></div> <div style="border-bottom: 1px dashed black; height: 15px; width: 100%;"></div>
評 価 項 目	評価	
1 安全に気をつけることができた。		
2 みんなと協力することができた。		
3 練習の工夫をすることができた。		
4 服装をきちんとしてすることができた。		
5 準備や片づけがきちんとしてできた。		
6 めあてを達成することができた。		
<p>* 工夫した技や新しい技、練習した方法などを、図や言葉でかきましょう。</p>		

研究授業を終えて

○授業後の反省

- ・授業の展開としては、楽しい体育の考え方に基づいて進めた。
- ・得意な児童、苦手な児童を考慮し、場の設定を工夫した。
- ・特に、苦手な児童へのめあての立てさせ方に配慮が必要であった。
- ・できない児童への適切なアドバイスができなかった。
- ・めあての達成できた児童へ、うまく評価する事ができなかった。

○質疑応答

- Q 準備運動は担任の指導か、児童の工夫か？
A シグナルランニング体操といい、児童が考えた動きも入っている。
- Q 「めあて」はいつ立てて、いつ記入するのか。
A 授業の終わりに、次の時間のめあてを立て記入している。
- Q 教師の立つ位置は何処に重点をおいたか
A 大技の多い危険な場所に重点をおいた。

○指導助言

- ・音楽にあわせた準備運動はとてもよかった。授業が済むまでBGMとして流してもよかった。
- ・ねらいの設定は児童の実態を踏まえて設定しなくてはいけない。
- ・自分の力にあっためあてを立てることが大切である。
- ・子供達が自主的に活動しているかが大切である。
- ・めあて達成のための場の工夫がよかった。
- ・教材教具の工夫、活用もよかった。
- ・総合評価を取り入れてほしい。
- ・教師の一言の援助も大切である。
- ・子供どうしの評価、教え合いも必要である。
- ・観点別評価の研究も深めてほしい。
- ・新しい体育、楽しい体育が生涯学習につながる。
- ・できない児童に自信を持たせることが大切である。

2. 施設・用具部

(1) ねらい

子どもたちがいつでも、どこでも、安全に楽しく活動し、体力を増進することができるように施設・用具を整え、環境を整備しておく。

(2) 内容

- ①施設・用具の安全点検
- ②施設・用具の調査研究
- ③学校環境の整備と美化
- ④簡易教具についての研究

(3) 体育用具の一覧

番号	品目	基準数量	現有数量	±
1	記録用黒板	4	2	-2
2	教授用掛図(体育)	1	1	
3	教授用掛図(保健衛生)	2	1	-1
4	跳び箱	8	7	-1
5	踏切板	8	4(1)	-4
6	踏切板距離調節器	8	0	-8
7	マット	20	12	-8
8	セフティマット	3	1	-2
9	低鉄棒(移動式)	6	5	-1
10	逆上がり練習機	6	0	-6
11	平均台	6	2	-4
12	タンブリン	8	0	-8
13	体育用太鼓	3	0	-3
14	オルガン	1	0	-1
15	ライン引き	4	2	-2

番号	品目	基準数量	現有数量 ()は自作	±
16	距離測定器 (メーター付き)	2	0	-2
17	コーナーポスト	20	2	-18
18	スターティングブロック	12	1	-11
19	信号器 (シグナル)	2	2	
20	走り高跳び用スタンド	4	0	-4
21	バトン	18	6	-12
22	ハードル	18	12	-6
23	体操用腰掛け	20	0	-20
24	ソフトボール用具一式	2組	0	-2組
25	テニスラケット	8	2	-6
26	テニス用支柱・ネット	1	0	-1
27	サッカーゴールポスト・ネット	2	1	-1
28	バスケットゴール (移動式)	2	0	-2
29	バトミントン一式	3組	0	-3組
30	卓球一式	3組	1	-2組
31	ポートボール台 (2台1組)	6組	1組	-5組

番号	品目	基準数量	現有数量 ()は自作	±
32	ボール整理かご	4	2	-2
33	得点板	6	2	-4
34	石灰入れ	1	0	-1
35	昇降運動用ふみ台	2	0 (2)	-2
36	体操用棒	40	0	-40
37	体操用輪	40	10	-30
38	一輪車	30	13	-17
39	竹馬	30	0 (7)	-30
40	大玉	4	0	-4
41	ボール投的板	3	0	-3
42	旗立台	18	0 (10)	-18
43	シャベル	6	0	-6
44	砂ならし	3	0	-3
45	空気入れ	4	1	-3
46	長縄	12	0 (2)	-12
47	短縄	40	0	-40

番号	品目	基準数量	現有数量 ()は自作	±
48	綱引き用ロープ	1	0 (2)	-1
49	プール用水泳用具一式	1組	0	-1組
50	体育関係測定器一式	2組	0	-2組
	上体そらし測定器		1	
	背筋力計		1	
	握力計		1	
	オーゾメーター		1	
△印は基準に無いもの				
△	卓球台		1	
△	審判台		1	
△	マット運搬車		1	
△	バレー用支柱・ネット		1	
△	バトミントン用支柱		1	
△	ゲーム用ベスト		40	
△	ユニホック		1組	
△	ストップウォッチ		7	

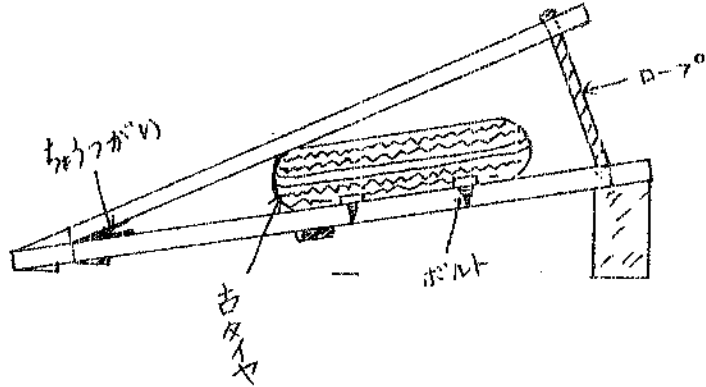
番号	品目	基準数量	現有数量 ()は自作	士
△	巻き尺 (10M)		1	
△	巻き尺 (50M)		1	
△	巻き尺 (100M)		2	
△	パーレーボール		3	
△	サッカーボール		3	
△	バスケットボール		24	
△	ドッジボール		20	
△	ノーパンクボール		10	
△	ソフトボール (1号球)		6	
△	ソフトボール (3号球)		3	

(4) 考察

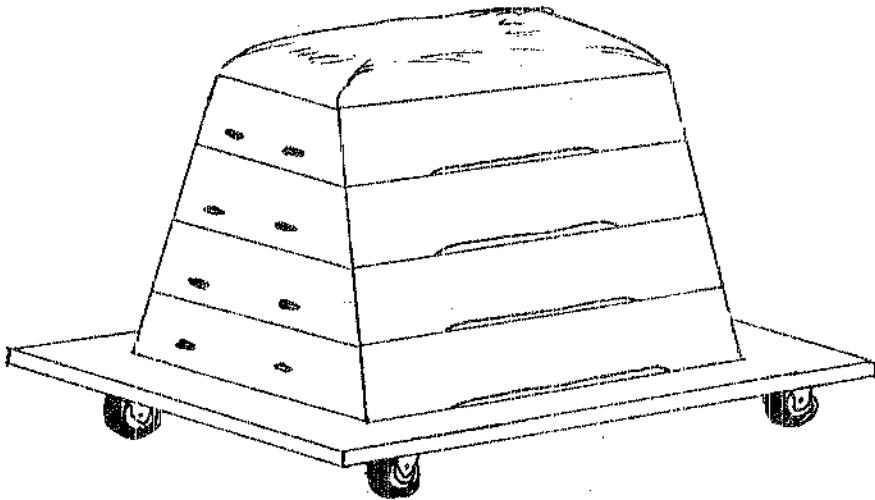
- ・学級数7に対し、基準に定められた数量がそろっていない。
- ・特に器械運動等の器具が少ないので、学習に支障をきたすことがある。
- ・今年度は体力づくり推進校指定になり、鉄棒、跳び箱、一輪車等の備品を多数購入することができた。また自作のものを工夫したりしているが、基準数にしては不足である。
- ・外遊び用の固定遊具類がなく遊びの種類が限定されている。

工夫した用具 (例)

(1) 古タイヤを利用した踏み切り板



(2) 跳び箱運搬台



3. 調査研究部

3 調査研究部

(1) ねらい

スポーツテスト、各種の調査を行うことにより、児童の体力、運動能力の実態並びに特徴を把握し、体力づくりを推進していく資料とする。

(2) 内容

- ① 児童の体位の調査
- ② スポーツテストの集計結果
- ③ 体育学習についてのアンケート調査結果と考察
- ④ 児童の健康状態

(3) 実践

①児童の体位の調査

○体位の比較(県、全国平均との比較。県、全国平均は平成5年度のもの)

男子		1年	2年	3年	4年	5年	6年
身	上原小	116、2	121、8	131、7	130、7	134、1	146、3
	沖縄県	115、3	121、0	126、5	131、7	137、1	143、3
長	全国	116、8	122、5	128、1	133、5	138、7	144、6
体	上原小	21、7	23、5	30、2	29、3	30、9	40、7
	沖縄県	21、3	23、9	27、0	30、4	34、0	38、3
重	全国	21、7	24、3	27、4	30、6	34、3	38、4
胸	上原小	61、3	61、7	69、0	65、9	67、6	75、1
	沖縄県	57、7	59、9	62、5	65、1	67、6	70、5
囲	全国	58、2	60、0	62、9	65、5	68、2	71、0
座	上原小	65、2	61、7	72、2	72、1	73、6	78、3
	沖縄県	64、5	67、2	69、7	72、0	74、5	76、9
高	全国	65、2	67、8	70、4	72、7	75、1	77、6

女子		1年	2年	3年	4年	5年	6年
身	上原小	115、1	121、1	127、4	131、7	140、5	145、3
	沖縄県	114、9	120、6	126、2	132、4	139、2	145、8
長	全国	116、0	121、7	127、4	133、3	139、9	146、5
体	上原小	21、6	23、9	25、1	29、2	33、8	37、9
	沖縄県	20、8	23、5	26、6	30、2	34、6	39、9
重	全国	21、2	23、8	26、8	30、2	34、4	39、4
胸	上原小	60、7	60、8	60、8	65、9	68、7	73、4
	沖縄県	56、3	58、5	61、1	64、1	67、7	71、9
囲	全国	56、8	59、0	61、5	64、3	67、7	71、7
座	上原小	65、0	67、5	70、6	72、4	75、1	78、8
	沖縄県	64、1	66、8	69、5	72、4	75、7	79、0
高	全国	64、8	67、4	70、1	72、7	75、8	79、1

○ローレル指数でみる本校児童の肥満度(%)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
ふとりすぎ	23、1	0	9、1	10、0	0	6、7
ふとりぎみ	0	9、1	0	15、0	15、4	13、3
標準	69、2	90、9	90、9	55、0	38、5	53、3
やせぎみ	7、7	0	0	20、0	46、1	26、7
やせすぎ	0	0	0	0	0	0

②スポーツテストの集計結果（県、全国との比較）

●…全国平均より優位 ▲…県平均より優位

1年

		50m走(秒)	立ち幅び(cm)	ソフトボール投げ(m)	び越しくぐり(秒)	持運び走(秒)
男 子	本校	12、08	●126、00	●11、20	▲14、72	●13、68
	県	11、80	116、80	10、10	15、00	15、90
	全国	11、22	120、97	10、31	14、66	16、10
女 子	本校	12、47	●115、43	●7、0	●14、89	●14、47
	県	12、0	106、9	6、0	16、3	16、7
	全国	11、60	111、21	6、22	16、15	16、73

2年

		50m走(秒)	立ち幅び(cm)	ソフトボール投げ(m)	び越しくぐり(秒)	持運び走(秒)
男 子	本校	●10、06	●142、00	●19、40	●12、34	●13、18
	県	11、0	129、7	13、7	13、5	14、9
	全国	10、46	136、97	14、56	13、09	14、97
女 子	本校	▲10、78	●130、75	●9、00	●12、35	●13、73
	県	11、2	119、9	7、9	14、6	15、7
	全国	10、74	126、99	8、08	14、39	15、68

3年

		50m走(秒)	立ち幅び(cm)	ソフトボール投げ(m)	び越しくぐり(秒)	持運び走(秒)
男 子	本校	10、35	▲142、75	●22、50	●10、03	●12、73
	県	10、3	139、9	18、6	12、5	13、9
	全国	9、84	144、74	18、93	12、30	14、37
女 子	本校	10、83	▲133、00	●14、00	●12、48	●12、68
	県	10、5	131、5	10、4	13、4	14、7
	全国	10、13	138、41	10、70	13、34	14、95

4年

		50m走(秒)	立ち幅び(cm)	ソフトボール投げ(m)	とび越しくぐり(秒)	持ち運び走(秒)
男	本校	10、35	142、31	22、92	▲11、80	●12、48
	県	9、8	150、8	23、2	11、8	13、7
子	全国	9、43	155、73	23、86	11、27	13、64
女	本校	10、13	●152、57	●15、43	●11、5	▲12、43
	県	10、0	141、8	12、9	12、7	14、5
子	全国	9、69	147、33	13、25	12、15	14、41

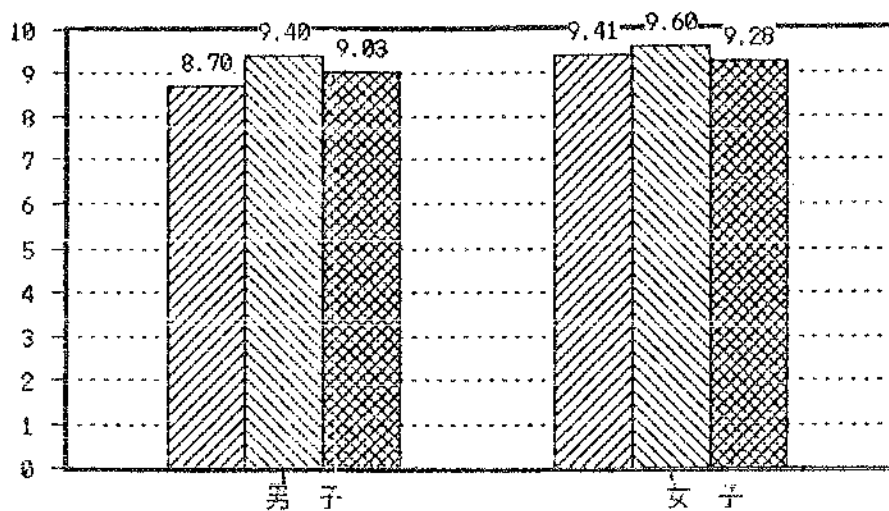
5年

		50m走(秒)	ソフトボール投げ(m)	ツバネリカ(秒)	連続跳上回(回)
男	本校	● 8、70	27、50	●14、78	▲ 3、00
	県	9、4	27、7	18、4	2、3
子	全国	9、03	28、69	18、38	4、00
女	本校	▲ 9、41	▲16、22	●15、25	0
	県	9、6	15、9	20、6	1、7
子	全国	9、28	16、47	20、40	4、07

6年

		50m走(秒)	ソフトボール投げ(m)	ツバネリカ(秒)	連続跳上回(回)
男	本校	● 8、64	●34、00	●15、07	2、00
	県	9、0	32、5	16、6	2、4
子	全国	8、69	32、71	16、78	4、29
女	本校	▲ 9、02	●22、2	●15、04	▲ 2、6
	県	9、3	18、2	18、9	1、8
子	全国	8、99	18、69	18、14	4、01

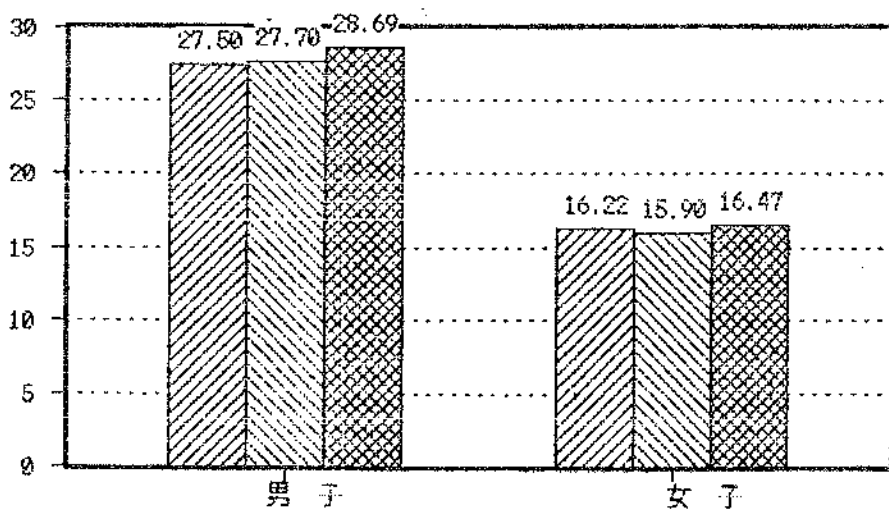
5年(10才) 50M走



▨ 本校 ▩ 県 ▧ 全国

	男子	女子
本校	8.70	9.41
県	9.40	9.60
全国	9.03	9.28

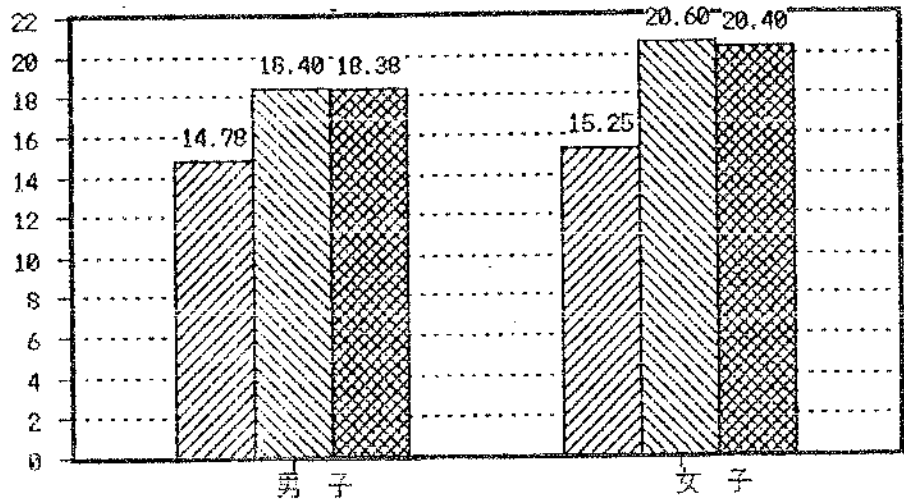
5年(10才) ソフトボール投げ



▨ 本校 ▩ 県 ▧ 全国

	男子	女子
本校	27.50	16.22
県	27.70	15.90
全国	28.69	16.47

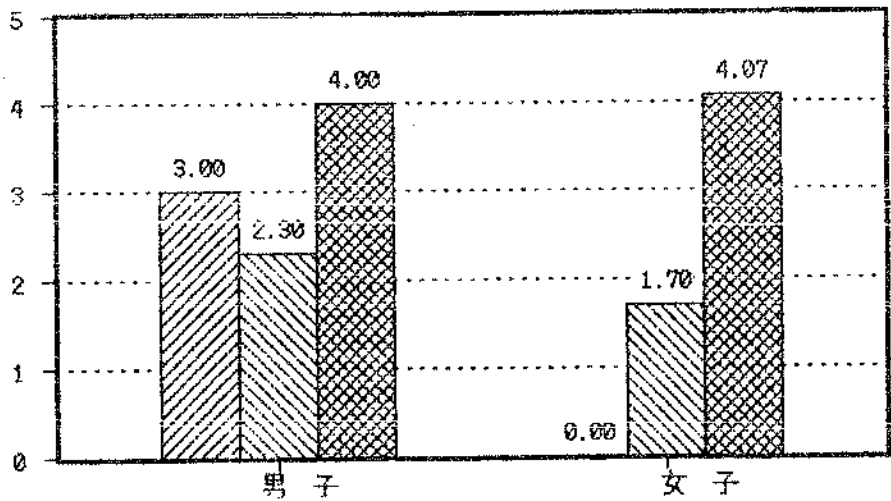
5年(10才) シカザグドリアル



▨ 本校 ▨ 県 ▨ 全国

	男子	女子
本校	14.78	15.25
県	18.40	20.60
全国	18.38	20.40

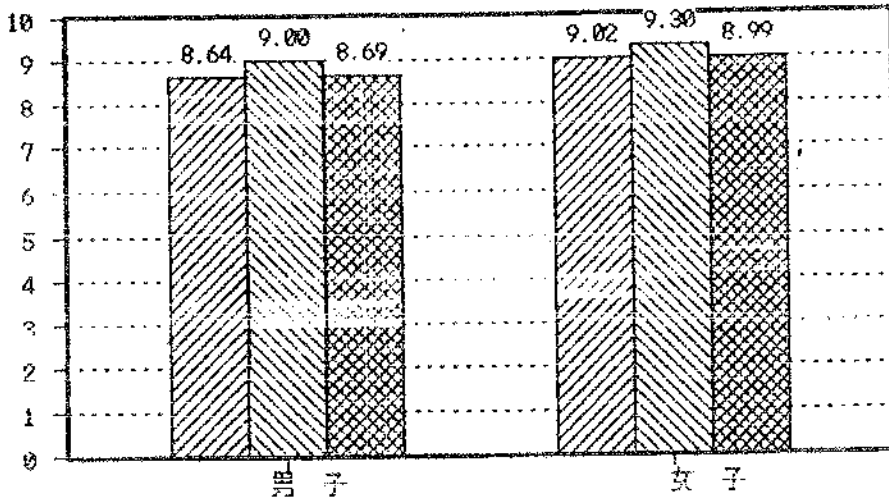
5年(10さい) 連続道上がり



▨ 本校 ▨ 県 ▨ 全国

	男子	女子
本校	3.00	0.00
県	2.30	1.70
全国	4.00	4.07

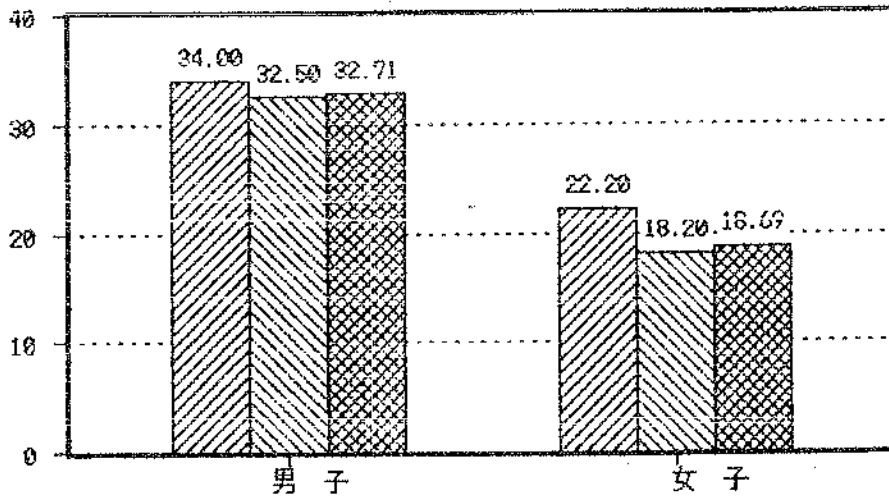
6年(11才) 50M走



▨ 本校 ▩ 県 ▧ 全国

	男子	女子
本校	8.64	9.02
県	9.00	9.30
全国	8.69	8.99

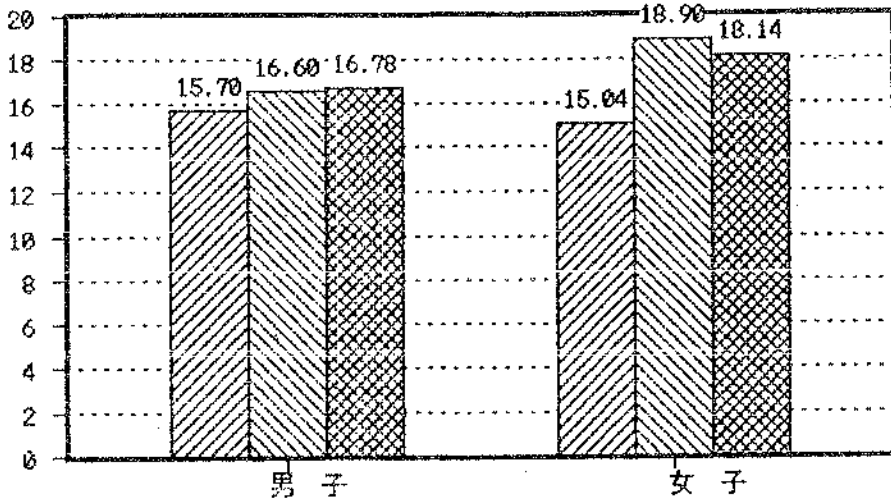
6年(11才) ソフトボール投げ



▨ 本校 ▩ 県 ▧ 全国

	男子	女子
本校	34.00	22.20
県	32.50	18.20
全国	32.71	18.69

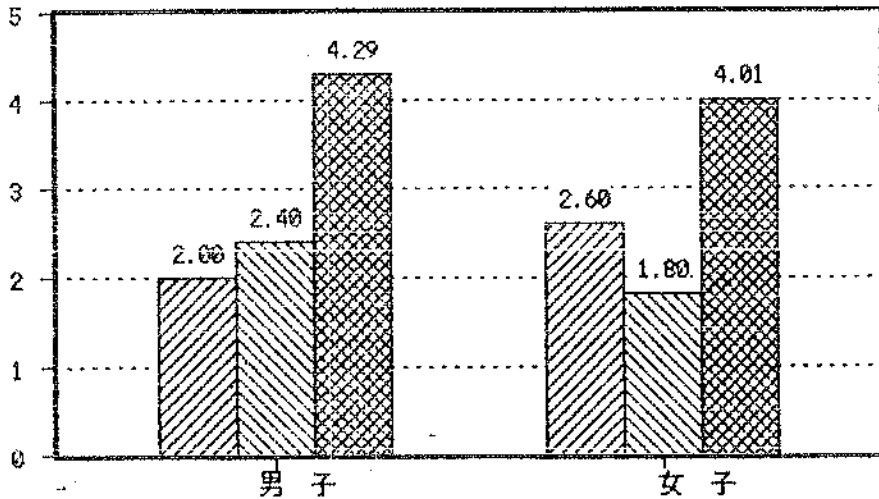
6年(11才) シクザグドリブル



▨ 本校 ▨ 県 ▨ 全国

	男子	女子
本校	15.70	15.04
県	16.60	18.90
全国	16.78	18.14

6年(11才) 連続逆上がり



▨ 本校 ▨ 県 ▨ 全国

	男子	女子
本校	2.00	2.60
県	2.40	1.80
全国	4.29	4.01

③体育学習についてのアンケート調査結果と考察

調査時期 平成6年11月8日

調査人員 低学年33人 高学年48人

項目	人数	%	分布	考察
1. 体育の授業についてこたえてください。			0 50 100	
(1) 体育の授業は楽しいですか				
ア はい	低 32 高 45	97 94		・体育の授業は、ほとんど子が好きである。
イ いいえ	1 3	3 6		
(2) はいとこたえた人、楽しいのはどんなときですか(3つ)				・低学年では、上手にできたとき、力いっぱい動けたとき、競争やゲームに勝ったときをあげている。
ア できなかったことができたとき	11 34	34 76		・高学年では、7割以上の子が、できなかったことができたときをあげている。「技ができる」ということが楽しい体育につながる大ききように思われる。
イ 上手にできたとき	14 21	44 47		・楽しいことを把握し、今後の授業に役立てたい。
ウ 先生にほめられたとき	10 13	31 29		
エ みんなの前でやったとき	2 2	6 4		
オ のびのびやれたとき	5 4	16 9		
カ 力いっぱい動けたとき	13 11	41 24		
キ 競争やゲームに勝ったとき	13 24	41 53		
ク 作戦がうまくいったとき	8 13	25 29		
ケ 自分の責任が果たせたとき	2 1	6 2		
コ 友達に助けってもらったとき	4 1	13 2		

項 目	人数	%	分 布	考 察
			0 50 100 ----- ----- -----	
サ グループで協力し合えた とき	14 11	44 24		<ul style="list-style-type: none"> ・低学年は、友達から文句をいわれるおもいっきり動くことができない、ボールがあまりこない、が理由である。 ・高学年は、苦手なものが多い、友達から文句を言われる、が主な理由である。 ・技の指導とともに「思いやり」の指導も必要である。 ・ボール運動は低高学年とも好きである。
(3)いいえとこたえた人、楽しくないのはどんなときですか。(3つ)				
ア 苦手なものが多い	0 3	0 100		
イ 友達から文句を言われるとき	1 2	100 67		
ウ おもいっきり動くことができない	1 1	100 33		
エ グループの人と仲良くできない	0 1	0 33		
オ ボール運動などで、あまりボールがこない	1 1	100 33		
カ その他	0 1	0 33		
(4)体育の学習で好きな種目を3つ選びましょう。				
ア 体操	4 0	12 0		
イ ボール運動	37 87	38 61		
ウ 器械運動	22 12	22 24		
エ 陸上	17 17	17 12		
オ 水泳	16 23	49 48		

項 目	人数	%	分 布	考 察
カ 表現(ダンス)	1	3	▯	
キ その他	0	0	▯	
カ 表現(ダンス)	1	3	▯	
	1	2	▯	
2、休けい時間についてごたえてください。			0 50 100 ▬	
(1)あなたは45分の休けい時間をどのようにすごしていますか。				
① どこですごしていますか。				
ア ほとんど外ですごしている	4	12	▯	
イ ほとんど体育館ですごしている	17	52	▨	
ウ ほとんど室内ですごしている	12	36	▨	約90%の子が体育館か室内ですごしている。外で遊ばせるよう考えたい。
② おもにどんなことをしてすごしていますか。				
ア 友達とおしゃべり	4	12	▯	
イ 遊び友達がいないのでなんとなくぼんやりとすごしている	3	6	▨	
ウ 何をしていたのかわからないのでなんとなくぼんやりとすごしている	1	3	▯	
エ 何かをやってすごしている	0	0		
	0	0		
	26	79	▨	多くの子が休けい時間、何かをやってすごしている。
	45	94	▨	

項 目	人数	%	分 布	考 察
何をしていますか			0 50 100 	
おにごっこ	9	35		<ul style="list-style-type: none"> ・高学年はサッカー ・バスケットが多い ・低学年はサッカー ・おにごっこが多い
野球	3	7		
サッカー	1	4		
バスケット	10	22		
読書	10	38		
	21	77		
	8	22		
(2)45分の休けい時間と放課後の過ごし方で、意見や先生方をお願いすることがあったらかいてください。 ・遊具をつくってほしい ・体育館の使用のきまりをまもってほしい (低学年から高学年へ)	16	36		<ul style="list-style-type: none"> ・遊具で遊びたいという声が多い。 ・遊具を増やして児童の声にこたえたい。
3、運動、スポーツについてこたえてください。 (1)運動やスポーツは好きですか。				
ア はい	32	97		<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの子が、好きとこたえている。
イ いいえ	46	96		
	1	3		
	2	4		

項 目	人数	%	分 布	考 察
(2)運動やスポーツをすると、 体のために役立つとおも いますか。			0 50 100 	
ア はい	31	94		・ほとんどの子が、 役立つと考えてい る。
イ いいえ	2	6		
	2	4		
(3)家族の人と一緒に運動やス ポーツをしたことがありますか。				・低・高学年とも半 数以上の子が家族 と一緒に運動スポ ーツを楽しんでい る。
ア はい	21	64		・親子で楽しむスポ ーツ、体力づくり ができるよう啓蒙 したい。
イ いいえ	32	67		
	12	36		・マラソンが一番多 く、野球、バドミ ントンとなっている。
	16	33		
(4)はいどこたえた人、何をや っていますか。				
・マラソン				
・野球				
・バドミントン				
(5)体を強くするために、何か を続けてやっていますか。				
ア はい	19	58		・低・高学年とも半 数以上が“はい” どこたえている。
イ いいえ	35	73		
	14	42		体を強くしたいと いう気持ちで遊ん でいるのではない と思う。
(6)はいどこたえた人、どんな ことをしていますか。	13	27		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> ・少年野球 ・バスケット ・マラソン ・剣道 </div>				・野球、バスケット 剣道は、スポーツ 少年団として結成 されているからだ といえる。

④児童の健康状態

○健康診断前保健調査より

回収率 低学年96、9% (31人) 高学年81、2% (39人)

数字は%

項 目		低学年	高学年	全体	
1	かぜをひきやすい	25、8	17、9	21、4	
2	頭痛をおこしやすい	6、5	2、6	4、3	
3	腹痛をおこしやすい	0	5、1	2、9	
4	疲れやすい	6、5	5、1	5、7	
5	便秘をしやすい	9、7	7、7	8、6	
6	下痢をしやすい	0	5、1	2、9	
7	朝 毎日食べる	74、2	97、4	87、1	
	ときどき食べる	22、6	2、6	12、9	
	食 食べない	0	0	0	
8	偏食がある	58、1	64、1	61、4	
9	持病がある	ぜんそく	16、1	15、4	15、7
		アトピー	0	2、6	1、4

○健康診断結果 (校医検診結果、諸検査結果、身体測定結果)

対象 低学年35人 高学年48人 数字は%

項 目	低学年	高学年	全体
視力低下(1.0未満)	5、7	37、5	24、1
扁桃肥大	8、6	14、6	9、6
肥満	8、6	2、1	4、8
ぎょう虫	11、4	2、1	6、0
耳垢塞栓	2、9	0	1、2
貧血	0	0	0

Ⅲ その他の体力づくり

1. ねらい

教科外体育の活動として、業間や体育集会活動などを通して児童の体力の推進を図る。

2. 内容

- (1) 業間あそびの計画と実施
- (2) なわとび集会の計画と実施
- (3) 校内持久走の計画と実施

3. 実践

親子駅伝大会実施計画案

(1) ねらい

- ・全児、職員・父母の業間体力向上と健康の維持を図る。
- ・全児、職員・父母のきずなを深める。
- ・最後まで頑張り通す強い精神力を養う。

(2) 方法並びに方針

- ・1チーム22名とし、児童チーム、PTAチームを編成する。
- ・走る距離は、低学年600m、中学年1000m、高学年1500mとする。
- ・各チームの区間タイムは取らず、総合タイムで計る。
- ・先導車を配置する。(船浦駐在所バトカー)
- ・閉会后全員でぜんざいを食する。

(3) 日時

実施日 平成 年 月 日()
時間 午前9時15分～午後12時

(4) 日程

8:15 ……8:40 朝の会(健康観察)体の調子、参加の可、不可
8:45 ……9:00 職員朝会
9:00 ……9:20 開会式、準備運動
9:20 ……9:30 選手配置
9:30 ……11:00 駅伝競争
11:00 ……11:50 閉会式
12:00 …………… 下校

(5) 事前指導

- ・体育の授業の中で学年に該当する距離を走り込む。

(6) 事後指導

- ・無理なく楽しく走れたか学級で話し合う。

IV 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

平成6年度より、県教育委員会・竹富町教育委員会より「体力づくり推進校」の指定を受け「自ら進んで、運動に親しむ上原っ子の育成」をテーマにかかげ、理論研究をはじめ、研究体制づくり等を中心にし、授業実践を含めて研究に取り組んできた。

「新しい体育」の理論 研究を基に、単元構成、場の設定、運動の特性を生かすための工夫めあての持たせ方等、全職員協力のもと研究を進めてきた。

試行錯誤しながら進めてきた研究ではあるが、研究を進めていく中で多くの課題が次々と出やるべきことが山積している。こうした事も含めながら、以下に成果と課題を述べ、次年度は更に研究を深めていきたい。

(1) 研究の成果

- ① 「新しい体育」についての理論研究を深めることにより効果的な授業が進められるようになった。
- ② 調査研究部の活動により、児童の実態を把握することができた。
- ③ 施設・用具の購入、修理などができた。

(2) 今後の課題

- ① 個に応じた学習の場を設定するための、教具の確保。
- ② より使い易い学習カードの改善と工夫。
- ③ 運動遊具の充実をどのように進めていくか。

参考文献

『学校における体力づくりの全体構想』（沖縄県教育委員会）

『小学校体育指導資料・指導計画の作成と学習指導』文部省

『小学校・新しい体育の考え方、進め方』（宇土正彦）

『小学校体育指導書』文部省

『体力づくり読本』（教育開発研究所）

『新しい学力観に立つ教育課程の創造と展開』文部省

平成6年度研究同人

喜納和善 津嘉山和美 前盛民子

田真安浩 西原直美 上元恭子

漢那憲吉 中野美由紀 石垣佐和子

平地綾子 座間味 靖 仲間清邦

森永 梢 宮里慶子 渡久山房子

花原厚子 新崎長幸

